

## 平成18年度学術創成研究費 事後評価結果

研究課題名	新規生理活性脂質の生体機能	研究代表者名	和泉 孝志
-------	---------------	--------	-------

### 1 研究計画、目的の達成度について

当初の研究計画、目的に照らし、採択時以降の関連分野の学術動向を踏まえた上で、その達成の度合いはどうか。

- ア ( ) 予定以上に達成した
- イ ( × ) 概ね予定どおり達成した
- ウ ( ) 一部不十分である
- エ ( ) 達成していない

意見：  
G2A 受容体のリガンドの発見など目的の多くは達成された。

### 2 当該学問分野及び関連学問分野への貢献度について

当該学問分野及び関連学問分野における研究の発展に関し、貢献の度合いはどうか。

- ア ( × ) 十分に貢献できた
- イ ( ) 概ね貢献できた
- ウ ( ) 一部貢献できた
- エ ( ) 貢献できていない

意見：  
今後の医療応用も含め関連分野へ貢献できるものと思われる。

### 3 研究成果について

(1) 学術創成研究費の趣旨及び当初の研究計画、目的に照らし、学術創成研究費としての意義ある成果をあげたか。(又はあげつつあるか。)

- ア ( ) 非常に高く評価できる
- イ ( × ) 概ね高く評価できる
- ウ ( ) 一部高く評価できる
- エ ( ) 高く評価できない

意見：  
未解決の課題が数多く残されている脂質の機能解明の分野の創成に貢献した。

(2) 研究成果の普及性、波及性はどうか。また、研究成果の積極的な公表に努めているか。

- ア (×) 非常に高く評価できる
- イ ( ) 概ね高く評価できる
- ウ ( ) 一部高く評価できる
- エ ( ) 高く評価できない

意見：  
研究成果は論文として充分公表されている。

#### 4 研究課題の総合的な評価

該当欄		評価結果
	A +	期待以上の進展があった
×	A	期待どおり進展した
	B	期待したほどではなかったが、一応の進展があった
	C	十分な進展があったとは言い難い

##### 総合的な評価意見：

生理活性脂質の受容体、産生機序に関して、当初の目的をほぼ達成する成果を挙げている。研究組織を構成する二つのグループの連携が充分生かされていないので、本プロジェクトを契機に今後より融合的な研究を進めていくことを期待したい。